

元英国外交官チャールズ ル ガイ イ トン (2/6)

:

明:

哲学者/作家による真の探求は、信仰と行を和させるための恒常的な葛藤にまさらされました。第2部
: 宗教 に する 人的ジレンマ。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 著名人](#)

より: ガイ イ トン

日 01 Oct 2012

集日 01 Oct 2012

「どこから知を得ればよいのか？」私は15になると、哲学というものをし、それは（英で）「英知への」を意味することを知りました。英知こそが私の探し求めていたもので、私の必要性をたすものは者たちによって著された重い本の中にされているのだと思いました。探家が未の土地を目にしたときのような、抑えきれないほどのを胸に、私はデカルト、カント、ヒュム、スピノザ、シヨペンハウア、バトランドラッセルなどの著をりました。しかし、何かがおかしいと悟るまでにそれほどはかかりませんでした。この分野からは、砂を食べながらいを求めているようなものだったのかも知れません。というのも、彼らは何も知らなかったのです。彼らはに、いから想を振りって、をしていたのです。なら小学生でも出来ることです。どうして15 16の子供が生意にも西洋哲学を完全になものとして切りてるのが出来るのかって？ ザンヌ（解）としてクルアンが言及するものと、真の知を区するのに、成熟さはいりません。同に、母は私にして常々、他人の解や言をにしてはだめだと言いつけてきましたし、それは私自信の判断力をいりました。西洋文化はそれらの哲学者たちを大人人々として持ち上げ、大学生たちは彼らの著作に敬意を示しつつ学びますが、私にとってはどうでも良いこととなっていました。

その、中等学校高等部のとき、私に味を持ったが、当の私には理解出来なかった奇妙なことを言いました。「私の知る限り、君は唯一の真の普遍的疑者だ。」彼は宗教に特定して言及したのではありません。それは、もが当然のこととして捉えられている事柄にして、私が疑を呈しているようだという意味だったのです。私は、衣食住や配偶者を探すことにかけては卓越した理性の力が、なぜ世俗世界の外にも用事が出来るのかを知りたいと思っていました。私は「汝はすべからず」という戒律が、ユダヤ教徒キリスト教徒でもない人々にも用されるべきだという概念に困惑していたと同時に、世界中に美しい女性たちがいるにもわらず、一夫一制が普遍的に践されていることにも得がいきませんでした。私は自分の存在自体をも疑うようになりました。その大分に、中国の人である子の逸として、ある夜に彼が自分が蝶になったをて、起きたときに自分が本当に蝶になったをみていた子という人物なのか、それとも蝶が子になったをているのかという疑念を抱いたとされています。私は彼のジレンマを理解することが出来ました。

がその言をしたとき、私はさらにかなる知というものをしていました。それは偶然でした（、偶然などというものは存在しないのですが）。私はエジプト学者であるペリ教授の「原始海洋」という本をつけていたのです。教授は、古代エジプト人がパピルス船によって世界の各地に彼らの宗教神をめたという信を持ちます。このを明するために、彼は古代神だけでなく、代の「原始的」人々の神やシンボルを何年にも渡って研究しました。彼が明らかにしたのは、信仰の表としての肖像の相にもわらず、くべきほどの信仰そのものの合致でした。彼はパピルス船のについては明していませんが、それとは全くなるものを明しています。どうやら肖像のタピストリには、真性、世界と人の造、そして人のの意味における普遍的真理があるようで、それらの真理は私たちの血や骨と同じくらい私たちの一部なのです。

代における不信仰の主なる原因は、相互に矛盾しているように映る、宗教の多化です。欧州人が自らの人の越性を信じける限り、彼らはキリスト教が唯一の真の信仰であるということに疑いを持つ理由はないのです。彼らが「化の程」における点だったという概念は、他のすべての宗教は根本的に答えを与えるための幼稚なみであると思ひ

ませました。この人 的自信が いたとき、疑念が忍び んできたのです。善良な神にとって、人 の大半が 宗教への奉仕に人生を やすことを すのはあり得ることなのか？ キリスト教徒にとって、自分たちだけが救 されると信じ けることはこれ以上可能なのか？ 他者、例えばムスリムも同 の主 をしています。 が正しく、 が っているかを 信することはいかに可能なのか？

私を含む多くの人々は、ペリ の本に出会うまで、当然の として、皆が皆正しいことはあり得ないから、皆 っていなければならない、というものでした。宗教とは幻想、すなわち 望的思想なのだということです。

また他者は、「科学的真 」を宗教的「神 」に置き えることが出来ると するでしょう。科学とはそもそも、 して 明することの出来ないものである理性の 性、また が真理であるという 定を基 として されたものであるため、私にはそれが出来ませんでした。

ペリ の本を んだ 、私はクルア ンについては何も知りませんでした。その 会が れたのは大分 のことで、私がイスラ ムについて知っていたことは、 の1000年 の 史において蓄 された偏 によって曲解されたものでした。私が知っていれば、キリスト教の大 への方向へと んでいたことでしょう。クルア ンにおいては、地球上の 一人として神の きと真 の教 がもたらされなかった者はなく、人々は神の使徒によって、常に彼らの特定の状 やニズを たすため当地の「言 」によって りかけられていたのであることが されています。それらのメッセ ジが曲解された理由は言うまでもなく、真 が世代と共に歪められていくことについても くべきことではないですが、その痕 すらもが数世 っても つからないのであれば、それこそは 愕すべきことでしょう。神 や象 （ 去の人々による「言 」）によって形を えたそれらの痕 が、 示された真 に基づいたものとして最 示を するものであることは、完全にイスラ ムと一致するものであると私は思っています。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/160>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。